

車体

NEWS

AUTUMN 2026 秋

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



ゴルフツアーバン
(詳細はP.26を参照)

CONTENTS

巻頭言2

NEWS特集

カーボンニュートラル対応 第21回3

コンプライアンス優先経営の徹底 第5回4

NEWS FLASH

本部だより5

部会だより7

支部だより9

官公庁だより10

会員情報12

NET WORK vol.124

タニ工業(株)13

VOICE STAGE 112

安全自動車(株)15

(株)ノルメカエイシア16

そこが知りたい 第71回

「SCS評価制度とは?」17

働くクルマたち 第54回

「原木運搬車」19

COFFEE BREAK21

いどばた会議 第27回

「私の宝物」23

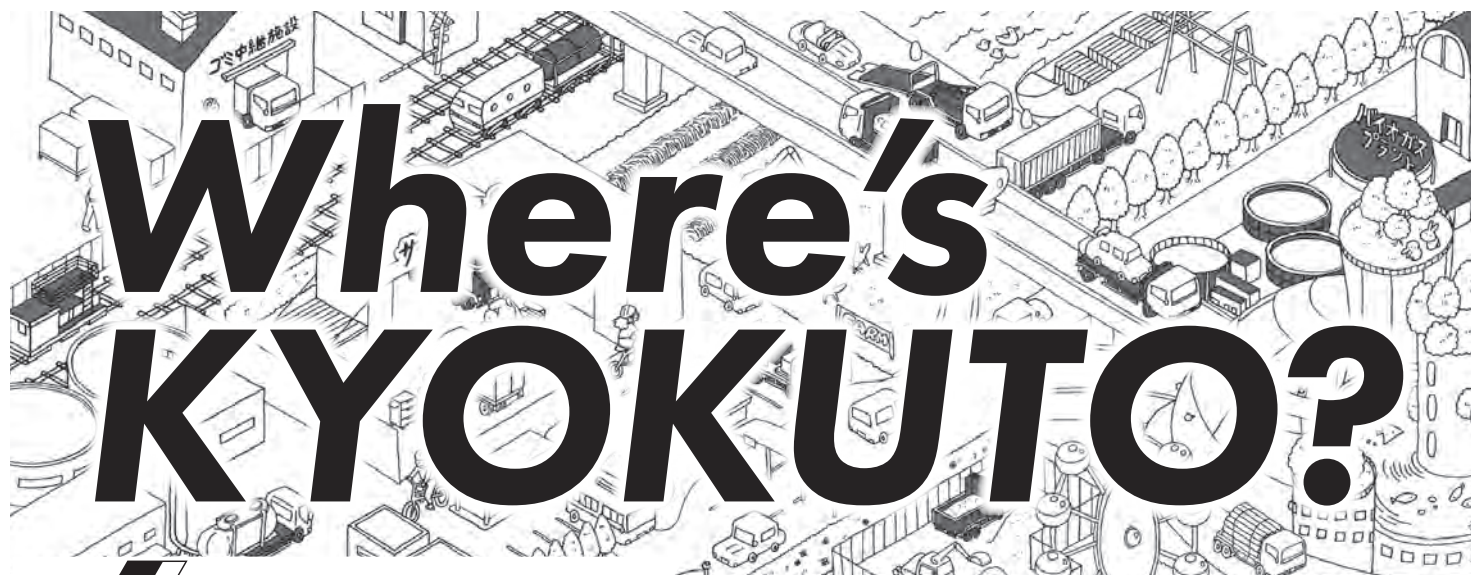
我が社の元気人24

DATA FLASH

2026年度 主要車種の生産状況25

編集後記26





Where's KYOKUTO?

／ KYOKUTOはどこだ？



まちと暮らしのミライをつくる。

極東開発工業株式会社

はたらくクルマと、
ミライをつくる
特装車事業

循環型社会の、
ミライをつくる
環境事業

モビリティ社会の、
ミライをつくる
パーキング事業

www.kyokuto.com



この時代の 業界「困りごと」解決に

副会長 矢野 彰一

(株)矢野特殊自動車・代表取締役社長



副会長及び中央業務委員長を拝命しております矢野でございます。平素より当会の活動に、多大なご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

7月28日に発生しました「令和8年熊本地震」において、被災されました方に心よりお見舞い申し上げます。被災現場に次々と全国から派遣される救助工作車、高規格救急車、ドクターカー、給水車、重機運搬車、トイレカーなど多種多様な緊急支援車両は、その多くが当会会員企業によって製作されたものです。当会の社会的重要性を改めて実感するとともに、皆様の日頃のご努力に敬意を表します。

中央業務委員会におきましては、「中小企業会員支援」や「コンプライアンス優先経営の徹底」などを重点課題として活動を行っています。

中小会員における「困りごと」の中でも、「労働力不足」は、年々深刻化する最重要課題です。「採用力強化」、「人材多様化」、「生産性向上」などの対策については、長年にわたり委員会、その関連活動の中で議論を重ねていますが、簡単には改善できないのが実情です。

そのような状況の中、今年5月に外国人就労制度(特定技能および育成就労)において、自動車製造業が業種認可されたことは、「人材多様化」に向けた明るいニュースです。自工会・部工会・車工会の自動車3団体と経産省の連携活動に感謝しつつ、業界での外国人就労の一層の進展を期待いたします。

「生産性向上」もまた重要な課題です。中小会員においては、今、競合他社との過剰な消耗戦を避ける「商材の選択と集中」が、特に優先すべき対策だと考えます。そして、次に「仕様の選択と集中」で、顧客ごとの個別仕様を集約・標準化する活動も、この時代には避けて通れません。「個別対応こそが、中小ボデーメーカーの市場存在価値」という固定観念は一旦取り払い、「差別化された独自(オンリーワン)の仕様」へ集約すれば必ず存在価値は維持できると、信念を持って取り組むことが大切ではないでしょうか。お

客様に、「納期短縮とコスト削減のための推奨仕様」として提案すれば、必ずや受け入れてもらえると考えます。この時代、納期とコストの重要度が、確実に高まっています。昨年までの、中小ネットワーク強化ワーキンググループ活動「営業マン勉強会」で、議論された「提案型の営業」の核心であり、今こそ実践のチャンスと確信します。

もう一つ、「労働力不足」対策のヒントとして、同ワーキンググループの訪問ヒアリング活動で、今年2月に伺った株式会社ナッツ様独自の海外生産があります。ナッツ様では、キャンピングカーのFRP成形ボデーを中国やフィリピンの自社工場で製造・組み立てし、それを輸入して北九州工場でシャシに搭載して仕上げるという工程を確立されています。ボデー製作は海外、シャシ搭載は国内という分業体制は、今後の我々の「労働力不足」対策のモデルになるのではないのでしょうか。

カーボンニュートラル(CN)も中小会員の「困りごと」の一つです。当会のホームページには、「儲かる、すぐできる、誰でもできるCN」のキャッチーな見出しで掲載されるCN改善事例集があり、そこはノウハウの宝庫です。当会に参加する価値の一つとして、ぜひ参考にしてください。温暖化がますます進展する地球を救うために活用していただければ幸いです。

結びにあたり、2021年の中小会員ネットワーク強化ワーキンググループ活動で掲げた「将来ビジョン」を改めて共有させていただきます。

「会員同士の強い絆とネットワークで価値共創の好循環。オンリーワンの架装技術で社会課題解決に挑む」です。今もまだ有効で意義深いビジョンを共有し、この変化の時代における「困りごと」解決の指針にして頂ければ幸いです。

会員の皆様に「参加して良かった」と心から感じていただける車体工業会活動へ、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

カーボンニュートラル対応 第21回

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国内外で脱炭素化の取組みが加速しています。近年は単なる省エネルギー活動だけでなく、DX(デジタル技術)や再生可能エネルギー、水素・蓄電池などの新技術活用が進んでいます。また、取引先からCO2排出量の把握や削減を求められるケースも増えており、自社の競争力強化の観点からも対応が重要になっています。

注目される脱炭素関連技術

- ① **AI・DXによる「見える化」**
工場設備の電力・ガス使用量をリアルタイムで把握し、エネルギーロスや設備異常を早期発見。効率的な省エネ活動につながります。
- ② **電化・燃料転換**
ヒートポンプや高効率空調設備、電気加熱炉などへの更新により、省エネとCO2削減の両立が期待されています。
- ③ **水素・次世代燃料**
水素やアンモニアは将来の重要なエネルギー源として期待されており、自動車・物流・製造業分野で実証が進んでいます。
- ④ **蓄電池と再生可能エネルギー**
太陽光発電と蓄電池を組み合わせることで、自家消費拡大や電力コスト低減が期待されています。
- ⑤ **サーキュラーエコノミー(循環経済)**
再利用・再資源化を進めることで廃棄物削減を図るとともに、資源価格高騰への対応や企業価値向上につながります。

活用したい支援制度

- ① **省エネ・非化石転換補助金(経済産業省)**
省エネ性能の高い設備への更新や、EMS(エネルギーマネジメントシステム)導入などを支援する補助制度です。
・高効率空調設備 ・LED照明 ・高効率ボイラー
・コンプレッサー ・変圧器 ・EMS など
工場や事業場での設備更新を検討している企業は活用を検討したい制度です。
- ② **SHIFT事業(環境省)**
工場・事業場の脱炭素化を支援する制度で、以下などの取組みを支援しています。
・設備運用の改善 ・DXによるエネルギー管理
・設備更新 ・電化・燃料転換
中小企業向けメニューも用意されています。
- ③ **脱炭素経営に関する相談支援**
中小機構や商工会議所では、
・CO2排出量算定 ・省エネ診断 ・GX対応相談
などの支援を実施しています。
「何から始めればよいかわからない」という企業は、相談窓口や省エネ診断の活用がおすすめです。

まとめ

脱炭素化は環境対応にとどまらず、エネルギーコスト削減や取引先からの要請対応、企業価値向上にもつながる重要な経営課題となっています。

まずは自社のエネルギー使用量やCO2排出量を把握し、活用できる支援制度を利用しながら段階的に取組みを進めることが重要です。

CO2排出量調査へのご協力依頼

2050年カーボンニュートラル達成に向け、会員の皆様の排出量や省エネルギーの取組状況を把握するとともに、実効性のある削減施策の検討・推進を進めております。

今年度も以下を調査しておりますので、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

- ① エネルギー調査(2025年度実績) ② CO2削減内容報告(2025年度実績) ③ 省エネ・CO2削減量報告(改善報告書)

ご要望・困り事など

会員にとって有益な情報を継続して発信して参りますので、掲載要望やお気づきの点がございましたらお気軽に事務局までお問い合わせください。

お問い合わせはこちら ➡ <https://www.jabia.or.jp/cn/contact/>
(会員ページ)



コンプライアンス優先経営の徹底 会員各社による独禁法/取適法対応に向けた活動紹介

第5回

中央業務委員会

中央業務委員会では、当会会員各社における独占禁止法(以下：独禁法)及び製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律(略称：中小受託取引適正化法、以下：取適法)の遵守を促進する社内風土(独禁法/取適法に関する知識や感度が高く、法令違反のリスクに事前に気づき、必要に応じて専門家へ相談できる風土)造りをサポートする活動を行っております。

今回は、公正取引委員会のX(旧ツイッター)を紹介いたします。

公正取引委員会Xには、措置命令等の報道発表、関係法令(独禁法、取適法、フリーランス法、スマホ法等)の解説、イベント(各種説明会・講習会・見学会、各種懇話会、各種会議、等)、【どっきんの事件ポイントざっくり解説】等が掲載されており、ほぼ毎日更新されていますので、最新情報がリアルタイムで労せず入ってきます。

そのため、

- ・ 公正取引委員会HPに比べて最新情報が取りやすい(自分で階層深くまで探しにいかなくても良い)
- ・ 最新の事例や直近のイベント情報が、自動で入ってくる
- ・ 公式キャラクターの”どっきん”が、事例を分かり易く解説してくれる
- ・ 公正取引委員会HPへのリンクが付いているので、詳細知りたい場合はすぐにHPへアクセスできる
- ・ 移動中やちょっとした空き時間に閲覧できる

など

公正取引委員会HPより圧倒的に使い勝手がよくなっています。

是非一度閲覧して、社内教育や風土醸成へのご活用を是非ご検討ください。

出典：公正取引委員会X

<https://x.com/jftc>



■理事会メンバーによる工場見学会

7月24日に理事・監事メンバーで、名古屋ボデー(株)・本社工場(愛知県名古屋市)及び新明工業(株)SowZow/住吉工場(愛知県豊田市)にそれぞれ12名、8名参加し見学を行った。

本見学会は、部会間の相互理解活動として従来から行ってきた机上での活動の深化版とし、昨年度より輪番制で部会長会社を現地現物にて見学していくこととし開始した。第2回目はトラック部会、近藤部会長の名古屋ボデー(株)訪問。合わせて、トラック部会所属の新明工業(株)の見学も併催した。

名古屋ボデー(株)は、1962年に設立し、トラックの荷台製造を中心にオーダーメイドでお客様の求める製品を提供し続けている。

1. 会社概要

設立：1962年5月

事業内容：トラックボデー製造、二次架装、車体改造、修理、販売・買取

企業理念：「1日1%の成長」

2. 工場見学の概要

見学では、設計から製造、架装、検査までの一連の工程を視察した。大量生産ではなく、一台ごとに仕様が異なるオーダーメイド生産が中心であり、熟練技能と現場の創意工夫によって多様な顧客ニーズに対応している点が印象的。

3. 主力製品と技術力

- ・ 建設機械・産業機械運搬車両
- ・ コンテナ運搬車両
- ・ 超高張力スクラップBOX「鎧」
- ・ LINE-X施工による高耐久荷台 等

4. 社長の課題認識と対応

- ・ 工程管理が難しく、予定通り車が作れない、時間が読めない。

「見える化表」を社員全員で共有。財務上の必要な納期を各工程毎に明確にし、一人ひとりが考え、工夫して納期に収まるよう管理している。

- ・ 労働集約型、人材確保

社員幸福度調査(2年毎)に基づき、優先順位をつけて改善に取り組んでいる。従業員とのコミュニケーション、社内表彰制度、月次決算報告会、1時間単位の有給休暇、希望者による土日出勤等様々な工夫により、離職率を抑える努力をしている。また採用はリファラル採用や工業

高校の最寄り駅への看板設置などを実施

- ・ 土地価格高騰

現在の敷地の有効活用のため新工場建設を計画

1日1%の成長に向け、様々な工夫、改善により、従業員のモチベーション向上やお客様からの信頼を得る努力を大切にした取組みを学ぶことができる大変有意義な見学会となった。



生産車両の紹介



プレゼンテーション

新明工業株式会社は1949年設立、愛知県豊田市に本社を置く総合技術企業である。設備事業と自動車事業を中核とし、自動車生産設備の設計・製作から自動車整備、特装車製作、レストア事業まで幅広く展開している。企業スローガンである「技術革新で車社会に貢献するモノづくり屋」のもと、自動車産業の発展を支えている。

1. SowZow見学

SowZowは、デジタルとリアルを融合した未来型ショールームとして2022年に開設された。施設内ではVRドライビング体験やオンライン商談環境が整備されており、従来の自動車販売・顧客接点のあり方を進化させる取組みを体感できた。また、同社が手掛けたレストア車両の展示を通じ、歴史的車両の保存技術と自動車文化への貢献について理解を深めることができた。

2. 住吉工場見学

3Dデータ化による、デザインレビュー活動として、車両製作前段階における組立工程のアニメーションによる作業性確認を実施し、手戻り削減等の効率化への取組み、現場で

のOJTツールとしての活用は技術力と現場力の高さを感じるものであった。

SowZowにおける先進的な顧客価値創造と、住吉工場における堅実なものづくりの両面は、同社の強みを象徴している。理事会メンバーにとっても、今後の業界発展を考えるうえで多くの示唆を得る有意義な見学会となった。



プレゼンテーション



レストア工場

■中小強化WG「第2回製造マン勉強会」 及び「工場見学会」を実施

中小強化WG(旧称:中小会員ネットワーク強化WG、リーダー・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、6月12日に12社12名が参加し、山田車体工業(株)本社沼津工場(静岡県沼津市)にて、第2回製造マン勉強会及び工場見学を行った。本WGでは2021年から「営業マン勉強会」を開催していたが2024年度で一区切りが付いたため、中小会員製造部門の人材交流企画として、同業他社製造との横のつながりを構築することと、会員工場の見学や各社製造の管理監督者間での討議を通じて、現場諸問題の解決策やヒントを持ち帰ってもらうことを目的として2025年度から開催している。

山田車体工業(株)の工場見学では、東京ドーム1個分の広大な敷地内



工場見学

の大小約15の工場を見学した。ここでは平ボデーとフラップ(ウイング)が混流生産されており、各工程で随所に工夫されたモノ造りや在庫管理、1つ1つ丁寧な作業等が印象的であった。また各工場内にはラジオが常時流れており、かかる曲についてベテランと若手の会話も生まれるため、コミュニケーションツールとして効果的とのことであった。

製造マン勉強会では、第1回に引き続き”人材問題”をテーマに、その対策として「上手くいったこと/上手くいかなかったこと/今後やってみたいこと」について、3グループに分かれて共有や討議、発表を実施した。



グループ討議中

前回同様に人材については各社が多く悩みを抱えているため、今回も討議時間が足りなかったが、参加者からは、「良い例、悪い例、失敗の経験からの成功例がとてもわかりやすくディスカッションできた」、「自分達でやっていない取組みや、会社ぐるみでやっていることなど参考になった」、「前回で同じ悩みを抱えていることが分かっていたので、より具体的に深く話をすることができた」、「前回はまだ距離があったが、今回は距離感を感じずに遠慮なく話をすることができた」等、今回も満足度の高い勉強会となり、回を重ねることで横のつながりがより強化されたと感じられた。今年度下期の第3回で人材問題対策のまとめを実施し、中小会員に向けて水平展開できるよう目指していく。

■環境委員会「リサイクル設計推進:解体現場 ・最終処分場視察と意見交換」を実施

架装物リサイクル分科会(分科会長・新井佳和・極東開発工業(株)技術本部営業技術部部長)は、リサイクル設計を推進するため、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会(以下、JTP)等と連携して、解体作業現場での課題把握と対策検討、再生処理困難材の調査を進めている。今回、JTPからの紹介で7月16日(木)に(株)マテック石狩支店、苫小牧支店(北海



道石狩市、苫小牧市)の2工場を見学し意見交換を行った。

石狩支店は33,000坪の広大な敷地にシュレッダー工場など18の建屋があり、回収物は素材ごとに分類、苫小牧支店へ運搬し最終処分を行っている。

特装車は120台/月を解体し、ニブラ*重機でコンテナに入るサイズに裁断し各工程で順次解体、分別しており、サンドイッチパネルも含めて特装車は、ほぼ100%再利用できている。
※ニブラ：金属を裁断するための切断機

(株)マテックは自工会と当会で取り組んでいる協力事業者制度(当会HP参照)にも参画しており、当会会員でも問題提起されていた木製パレットの処分について、対応可能であることも確認できた。

また、クルマのサーキュラーエコノミーを進めるため、'25年6月に(株)デンソー、東レ(株)、(株)マテックなど6社が発起人となり設立された「BlueRebirth協議会」活動にも積極的に参画され、ロボットを活用した解体作業の研究等に取り組まれている。

苫小牧支店では'23年に稼働した新設備を使って、以前に埋め立てた産業廃棄物を掘り起こして(当時の技術ではできなかった埋め立て物の選別)再資源化活動を進めている等、最新のリサイクルの現状を学ぶ機会となった。



苫小牧支店 選別工場

■相談役会を開催

8月21日に当会会議室にて宮内・増井両相談役と富山会長が参加し、対面にて開催した。

当日は、コンプライアンス・ガバナンス遵守に向けた活動を中心に、この1年間の取り組みの紹介と今後の会活動の在り方についてご相談を行った。

両相談役からは、ご自身の豊富な経験にもとづいた忌憚のないアドバイスをいただいた。

部会だより

NEWS+FLASH

特種部会

■第1回工場見学会

特種部会(部会長・森孝義・中京車体工業(株)社長)では、7月2～3日に18社30名が参加し、札幌ボデー工業(株)、(株)トラバス(いずれも北海道札幌市)、北海道車体(株)(北海道北広島市)を訪問し、工場見学を行った。

札幌ボデー工業(株)では冒頭に会社の沿革、概要、2030年の中期5か年計画の説明を受けた。持続的な成長に向けて4つの事業の取り組みを



札幌ボデー工業 パネル組立工程

掲げ、柱となる①SF事業(物流・暮らしを支える機能)で収益の基盤を支え、②T事業(安全・安心を支える機能)、③G事業(社会的課題解決)、④V事業(車両を支える機能)で収益を増やしていくこと、外国人採用ゼロで地元の採用にこだわり“学生に選ばれる会社”に向けた取り組み(プロ野球の年間シート購入による社員への還元、食堂の改修、休日増など)、特に10年前と比較して休日日数を25日増加させることで、1人ひとりが知識と技能・生産性を高め、高効率化を推進すべく、時間単価による管理の導入や後進の育成を人事評価制度に導入している点など、大変勉強になった。

また、'24/10に竣工された新塗装工場ではイタリア製USI社塗装ブースを導入し、CO2排出量▲45%、ヒートリカバリーシステムなどが札幌市SDGs認証第1期の13社に選ばれるなど、環境への取り組みも素晴らしいものがあつた。

(株)トラバスでは冒頭に会社の沿革、概要の説明を受けた。主力製品の馬匹運搬車工程、大型平ダンプ工程の2ラインを見学。CADは使わ



トラバス 馬匹運搬車製作工程

ずに図面起票～部品調達～生産指示～予備検～売上管理まで受注した営業担当が一気通貫で行い、ユーザーに寄り添った活動、従業員個々の高い技術力には学ぶべき点が

多々あった。

北海道車体(株)では冒頭に会社の沿革、概要の説明を受けた。オーダーエントリーシステムを導入し、トラック&トレーラを中心に生産しているが、同じ車両は1つもなく、社員1人ひとりが独自の技術を持っているのが強み。一般的に言われている5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に“Safety(安全)”を加えて6Sを徹底しており、大変勉強



北海道車体 家畜運搬車製作工程



北海道車体 縦型太陽光パネル

になった。現在の課題は①人手不足、②老朽化対策という特種部会会員も共通する悩みを抱えており、様々な意見交換ができた。

カーボンニュートラルへの取組みとしては雪国でもあることから縦型の太陽光パネルをオンサイトPPA(初期導入費用ゼロ)で導入している事例を紹介いただき、モノづくり・環境への取組みも含めて学ぶべき点が多々あった。

3社とも参加者にとって有意義な工場見学となった。特種部会では今年度3回の工場見学を予定している。

トラック部会

■工場見学会を実施

業務委員会(委員長・山田和典・山田車体工業(株)社長)では、6月9日に9社9名が参加し、共立工業(株)(広島県廿日市市)を見学した。

同社は1978年の創業以来、トラックボデーの架装の製作を中心に事業を展開している、特にユーザーごとの使用環境や業務内容に合わせた一点物の製品づくりを得意としており、設計から製作、組立まで一貫して対応できる体制を構築している。

工場内では、熟練した技術者による高品質なものづくりを間近で見ることができ、特に印象的だったのは、単に機能を満たすだけでなく、見た目の美しさや使い勝手にも徹底してこだわった製品づくりである。アルミ・ステンレスなど部材の見せ方に工夫が施されており、「魅せる架装」という視点を感じることができ、見学に参加した委員も、機能性と

デザイン性を両立する同社のものづくりに高い関心が寄せられていた。

近年、共立工業(株)では、自社ブランド製品の開発



にも積極的に取り組んでいる。その代表的な事例が、軽トラックをベースに開発された「GRASSHOPPER(グラスホッパー)」である。GRASSHOPPERは、「遊びも仕事もカッコよく乗る」をコンセプトに開発された軽トラックベースの架装車両で、荷台部分に独自設計のスラントバック形状キャノピーを装着することで、従来の軽トラックのイメージを大きく変える斬新なデザインを実現している。開発には元



フォードのデザイナーが参画し、スタイリングと実用性を高いレベルで融合させている点が特徴である。現在はダイハツ・ハイゼットトラックをベース車両として展開されており、軽トラック本来の機動性を維持しながら大容量の収納スペースを確保している。アウトドアやキャンプ用途はもちろん、移動販売車、訪問整備車両、各種サービスカー、職人向け車両など幅広い用途への展開が期待されている。GRASSHOPPERは国内外の展示会でも高い評価を受けており、大阪オートメッセをはじめ、世界最大級のカスタムカーショーである米国ラスベガスのSEMA SHOWへの出展も行われている。軽トラックという身近な商用車をベースにしながら、新たなライフスタイルや働き方を提案する車両として注目を集めている。さらに、このプロジェクトは単なる商品開発にとどまらず、社員の設計力や製造技術の向上、人材育成にも大きく寄与しているという。新たな挑戦に取り組むことで技術者の創造力を引き出し、会社全体の技術力向上につなげている点も大きな特徴である。今回の見学を通じて、共立工業(株)が培ってきた架装技術の高さとともに、「受注生産」から「価値提案型」のものづくりへと挑戦する姿勢を学ぶことができた。GRASSHOPPERは、軽商用車の新たな可能性を示すだけでなく、架装業界における高付加価値化や独自ブランド開発の方向性を示す好事例であり、参加者にとって大変有意義な見学会となった。

■工場見学会を実施

トラック部会(部会長・近藤匠・名古屋ボデー(株)社長)では、7月10日に15社15名が参加し、レシップ(株)(岐阜県本巣市)を見学した。

レシップ(株)は、バス・鉄道向け運賃収受システムやLED行先表示器、車載情報機器、



電源機器などの輸送機器関連製品を中心に、産業機器の開発・製造・販売を手掛けるメーカーであり、創業以来、「技術開発先行型・市場創造型」の理念のもと、自社で開発から製造・販売までを一貫して行う体制を構築し、高品質な製品を国内外へ提供している。

まずは会社概要および事業内容について説明を受け、工場内の製造ラインを中心に見学した。

製品の組立工程から基板実装工程、そして各種検査工程などを見学し、工程ごとに品質管理方法や生産管理の仕組みについて詳しく説明を受ける中で、多品種少量生産に対応する生産方式や、作業効率向上を目的とした設備導入、自動化・省人化への取り組みについて紹介いただき、製造現場では、部品供給方法に関する工夫や作業標準の整備、工程内品質保証から、品質を維持・向上させるための様々な取り組みが実践されており、現場改善活動や生産性向上に向けた継続的な改善への姿勢が各所に見られ、品質と効率を両立するための工夫について理解が深まった。

特に、多品種少量生産に対応した柔軟な生産体制を実現し、それをスムーズに実践する為、作業指示はタブレットで管理したうえで、正規の手順を踏まないと次の工程へ着手できないといった体制が整備されており、作業の標準化による品質と生産性の両立を感じられる内容であった。

特に、人の技能と自動化設備を適切に組み合わせながら高い品質を維持している点は、多品種・変種変量生産を行う会員企業にとっても大いに参考となる取り組みであり参加会員は、自動化設備に依存するのではなく、人による最終確認を徹底していることから、品質管理に対するレベルの高さ、多品種少量生産に対応する現場運営について多くの学びを得ることができたなどの意見があった。

今回の工場見学を通じて、レシップ(株)における製造現場の改善活動や品質管理、生産技術について理解を深めることができ、特に多品種少量生産への対応や品質保証の考え方、自動化設備の活用事例は、会員企業が今後の製造現場改善や生産性向上を検討する上で大変有益な内容であり、各社における改善活動の一助となる内容の多い見学となった。

支部だより

NEWS+FLASH

新潟支部

■研修会を実施

新潟支部(支部長・丸山正範・(株)丸山車体製作所社長)では、7月23日、7社9名が参加し、東邦車輛(株)群馬製作所(群馬県邑楽町)で研修会を実施した。

研修会では、会社概要の説明を受けた後、トレーラの生産工程を見学した。

特に気温の高い地域という事もあり、現場の暑さ対策に注力しており、大型冷風機や工場内数か所へのクールダウンスペースの設置などの取組みのほか、ドライアイスベストを現在試用しており、現場からも好評を得ているとのことであった。

見学者も、このような取組みに強い関心を寄せており、有意義な研修会となった。

中部支部

■愛知県自動車会館PR展示

中部支部(支部長・安藤章宏・(株)東海特装社長)は、事務局が入居する愛知県自動車会館にてPR展示を実施した。

愛知県自動車会館は、入居する自動車関連の17団体がロビーでのPRを実施しており今年で10回目となる。

車体工業会中部支部は7月の担当で、働く車としてトレーラ、キャリアカー、塵芥車、パトカー、救急車などのミニカー展示を通し「活動紹介」や「車体工業会パンフレット」、「車体NEWS」により、来館者へのPRを実施した。



近畿支部

■第15回製造部会を実施

近畿支部(支部長・須河進一・須河車体(株)社長)は7月17日、20社35名が参加し、ロックペイント(株)大阪工場で製

造部会を実施した。

今回の製造部会では、昨年建設された研修センターにてCNに取り組んでいる状況に対し教授頂いた。2班に分け、会社が取り組んでいるSBTiについてと、取引先であるNIKKEN様によりこれからの特定技能制度について、また実務関連は新商品である高隠蔽性塗料と従来の塗料を実演して頂き、双方比較を目で確認、如何に優れているか、塗料の量、作業時間等々説明を頂いた。また職人技である調色について、現在におけるデータ管理に対する説明、様々な講習会等を行いサプライヤーのスキルアップにも取り組んでいる姿勢等案内を頂いた。今回は特に実演を行うという事で実務者にも多く参加頂き有意義な講習会となった。

今回学んだ知識を、会社に持ち帰って頂き、現状を進めるのか？また新たな事にチャレンジするのか？各会員様の取り組みに期待をしたいと思う講習会であった。



四国支部

■講習会を実施

四国支部(支部長・北村和則・兼松エンジニアリング(株)代表取締役専務)では、6月11日、12社22名が参加し、リーガホテルゼスト高松(香川県高松市)で講習会と研修会を実施した。

研修会では「不正改造車排除」をテーマに、講師に四国運輸局自動車技術安全部技術課自動運転係長太田博喜氏を迎え講演を実施した。

講演の中では道路運送車両の保安基準の一部改正等について重点ポイントを説明頂き、今後も講習会を継続し不正改造車排除の更なるコンプライアンス遵守に努めていく。合わせてCNに関する基礎知識の勉強会も実施した。



官公庁だより NEWS+FLASH

道路運送車両の保安基準の一部を改正する省令、細目告示の一部を改正する告示について

国土交通省

・道路運送車両の保安基準の一部改正

- ① 車両の後退を示す表示を車両後方の路面に投影することにより、後方にいる歩行者や自転車といった他の交通にその旨を示すことができるものとして、新たに車両後退表示投影装置の基準を設ける。(保安基準第40条の2関係)
- ② 低速で走行するときに側方又は後方にある障害物を確認するための低速走行時照射灯について、車両の側面に加え、後面に備えることができるものとする。(保安基準第33条の3関係)
- ③ 任意で備えるカメラやモニタ等の視界を確認する装置について、歩行者等の保護に関する要件を設ける。(保安基準第44条関係)

・道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の一部改正

- ① 協定規則の改訂に伴い、引用する協定規則の番号を改める。
- ② 協定規則第73号の採択に伴い、巻込防止装置として側面保護装置を備える場合は協定規則第73号の要件を適用する。

・その他所要の改正(保安基準、細目を定める告示共)

「装置型式指定実施要領について(依命通達)」等の一部改正について

国土交通省

・装置型式指定基準において直接引用している協定規則番号の改定に伴う改正

- ① 「後写鏡等に係る協定規則(第46号)」
 - ② 「水素を燃料とする自動車に係る協定規則(第134号)」
 - ③ 「プログラム等改変システムに係る協定規則(第156号)」
- ・「側面保護装置に係る協定規則(第73号)」の採用及び「信号灯火に係る協定規則(第148号)」の補足改訂により車両後退表示投影装置が追加されたことに伴い、装置型式指定基準にこれらを追加する。
- ・その他所要の改正

内部統制システムを記載した書面の記載事項等を定める通達」の改正について

国土交通省

- ・従前の通達において定義や取扱い、表現などが不明瞭であったものを明確化するとともに、第三者評価の実務の充実を図る。

審査事務規程(交通研部分)等の一部改正について(第73次改正)

自動車技術総合機構

- ・「審査事務規程」別添1(試験規程(TRIAS))の新規追加及び一部改正等
細目告示に新たに採用された協定規則に対応したTRIASの新規追加(4項目)
- ① 二輪自動車等の施錠装置試験(協定規則第62号)
- ② 側面保護装置試験(協定規則第73号(单品))
- ③ 側面保護装置試験(協定規則第73号(車両))
- ④ 信号灯火試験(協定規則第 148 号(車両後退表示投影装置))
- ・細目告示に既に採用されている協定規則の改訂に伴う一部改正(15項目)
- ・誤記修正等(4項目)
- ・その他所要の改正

2026(R8)年度夏季の省エネルギーの取組みについて

経済産業省

2026年5月26日に開催した省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議において、令和8年度「夏季の省エネルギーの取組みについて」が決定された。

詳しくは、以下参照

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/government/shouene_torikumi_r8summer.html



超硬工具スクラップのリサイクル促進について

経済産業省

昨年より、切削工具や耐摩耗工具などに使用される超硬工具の主要原料であるタングステンに関して、世界的な供給不足や価格上昇が継続しており、その安定供給確保が、我が国製造業にとって重要な課題となっている。こうした状況の中、6月2日、一般社団法人日本機械工具工業会が、超硬工具スクラップのリサイクルを通じて、タングステンの国

内循環・環流を促進するため、「超硬工具スクラップのリサイクル促進に向けた選別・保管・処分に関するガイドライン」を改定し、公表した。

詳しくは以下参照

https://www.jta-tool.jp/recycle_01.html

経済産業省としても、産業界の超硬工具



ユーザーの皆様にも、同ガイドラインを活用した超硬工具のリサイクルの実施を通じて、タングステンの国内循環・還流に御協力をお願いする。ガイドラインを活用した適切なりサイクルについて、ご理解をお願いする。

中東情勢を踏まえた雇用調整助成金の活用に関して

経済産業省

厚生労働省では、今般の中東情勢による雇用への影響について、全国の都道府県労働局やハローワークにおいて、相談対応を行い、助成金のご案内や活用の促進等を行っている。このうち、雇用調整助成金については、今般の中東情勢による原材料の入手困難や価格高騰等に伴い事業活動を縮小し、休業等を余儀なくされた場合、要件を満たせば支給対象となるので、今般の中東情勢に係る雇用調整助成金をご活用ください。

また、中東情勢に係る雇用調整助成金をはじめ、労働施策に関する相談窓口について、厚生労働省ホームページ(中東情勢関連対策ワンストップポータル)内に掲載をしているので広くご活用願う。

詳しくは、以下参照

【厚生労働省ホームページ

(中東情勢関連対策ワンストップポータル)】

<https://www.mhlw.go.jp/stf/chuto-josei.html>



【雇用調整助成金の概要・お問い合わせ先】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/pageL07_20200515.html



2027(R9)年1月以降の給与所得の源泉徴収票の提出方法の改正について

経済産業省

国税庁からは2026(R8)年3月25日付「令和9年1月以降の給与所得の源泉徴収票の提出方法の改正に係る周知について」にて、本件に関してリーフレットを新たに作成し国

税庁ホームページに掲載する旨案内のあったところですが、この度、国税庁ホームページにて新たに案内用のリーフレットを作成・掲載したので、ご確認をお願いする。

詳しくは、以下参照

<https://www.nta.go.jp/users/gensen/hotei/index/minashi.htm>



2026(R8)年度価格交渉講習会開催のお知らせ

経済産業省

経済産業省 中小企業庁では、今年度の『価格交渉講習会』を7月より開催する。

物価高騰、円安など、厳しい経営環境を乗り越える鍵は「価格交渉力」にあります。値上げを切り出せない取引先との関係悪化が不安・根拠の示し方が分からない。そんな悩みを抱える中小企業の経営者・営業責任者の方のための価格交渉講習会となっている。

今年度の講習会では、

- ・ 価格転嫁を成功させる事前準備
- ・ データを活用した説得力のある説明法
- ・ 取引先との関係を壊さない伝え方
- ・ 実例から学ぶ成功ケース などについて、具体的な例を交えながら説明する。

昨年度までに受講いただいた方も、今年1月に施行された取適法への対応確認や、現場で迷いやすいポイントの整理・再確認の機会として、改めて活用いただける内容となっている。詳しくは、以下参照

【適正取引支援サイト】

<https://tekitorisupport.go.jp/>



デジタル推進人材育成プログラム 「マナビDX Quest」募集

経済産業省

経済産業省では、地域企業・産業のAX/DX(AIトランスフォーメーション/デジタルトランスフォーメーション)の実現に向け、ビジネスの現場における課題解決の実践を通じた能力を磨くため、デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX(デラックス)Quest」を実施する。

マナビDX Questは、(1)企業データに基づく実践的なケーススタディ教育プログラム及び(2)地域の中小企業との協働による、デジタル技術を活用した協働プログラムからなり、受講生を募集している。

詳しくは、以下参照

マナビDX Questホームページ

(応募・詳細情報は、こちら)

<https://dxq.manabi-dx.ipa.go.jp/>

マナビDX Questについて

(経済産業省ホームページ)

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/manabi-dx-quest.html



GX地域共創補助金の公募要領公開及び、説明会について

経済産業省

経済産業省では、脱炭素電源の立地地域に企業立地などし、脱炭素電力を活用した付加価値の高い事業活動を行う場合に、最大250億の設備投資支援を行う「GX地域共創補助金」を実施する。HPにて「GX地域共創補助金」の公募要領を公開した。

詳しくは、以下参照

<https://r8.gx-area-hojo.jp/>



会員情報

■入会	正会員	横浜車輛工業株式会社 取締役社長 清水 亨 〒224-0045 神奈川県横浜市都筑区東方町427番地 TEL. 045-471-9892 【主要製品】 カプラ架装・JRコンテナ専用車架装 【所属部会】 トラック部会		
	正会員	北関東自動車工業(株)	代表取締役社長	中村 進
■代表者変更		ジェイ・バス(株)	代表取締役社長	岡嶋 剛也
		松電通信(株)	代表取締役社長	小林 俊一
		(株)トランテックス	代表取締役社長	西原 正人
		富士車輛(株)	代表取締役社長	東 信隆
	準会員	(株)ノルメカエイシア	代表取締役社長	藤田 雅章



谷 浩和 代表取締役



DATA

- 本社 〒599-8241
大阪府堺市中区福田903番地
TEL 072-235-0310
FAX 072-235-2229
URL <https://tani-k.jp/>
- 資本金 1,500万円
- 従業員 24名
- 事業所規模
敷地：4,052㎡
工場：2,852㎡
- 車体工業会加入
2024年1月(特装部会)



タニ工業(株) クラマロ製「自動幌開閉装置」の普及で ドライバー、作業者の安全確保を推進。

配管・環境設備工事や、プラント建設を主業務として創業。主要製品は時代のニーズに応じ、大きく変遷。物流業界で問題となっている飛散防止・高所作業における転落事故防止の解決にクラマロ(伊・CRAMARO社)の「自動幌開閉装置」で取り組んでいる。

車体工業会 森田 敦次

● 特徴・沿革

タニ工業(株)は、1968年に大阪府大阪市で創業。配管・環境設備工事やプラント建設を主業務とし、業務拡大に伴い1972年堺市へ移転した。

時代のニーズに応じ、主要製品は大きく変遷し、創業初期は屋外生産プラントや環境装置の建設、立体駐車場の製造を専門としていた。

1980年代には流通倉庫や賃貸建物の建設といった建築分野へ進出。

他にも自転車組み立て業務や、自社開発の『自転車チェーン自動切断機』の製造販売など、ユニークな分野にも挑戦してきた。

1990年代から2000年代にかけて「物流・環境・防災分野へのシフト」を行い、自社開発・製造を始めたことが大きな転機となる。

1993年の新製品開発部門の創設を皮切りに、脱着式コンテナの製造・販売や車両用飛散防止シート等、トラック関連製品の取扱いを開始した。

熟練職人のこだわりによる堅牢性と安全性を兼ね備えた脱着式コンテナは好評で、規格品からフルオーダーメイドまで、これまで35,000台を超えるコンテナを供給してきた。

近年では、積荷の飛散防止と作業者の安全に配慮した電動式の「自動幌開閉装置」の日本国内での普及に力を注いでいる。

欧州ではオープントップ車両の荷台は飛散防止のためシートで覆うことが法的に義務づけられ、様々な幌装置が販売されている。

タニ工業(株)は伊・CRAMARO社と販売代理店契約を締結し、欧州で広く普及しているクラマロ製の「自動幌開閉装置」の日本国内での販売を開始し、幌かけの自動化によって、走行中の積荷の飛散を防止するとともに、トラック業界で長年に亘って問題となっている、荷台が上がって行う危険な幌かけ作業における死傷事故の解決に積極的に取り組んでいる。

製品

一 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

創業から50年を超え、多様な事業を展開してきました。現在は「コンテナ事業」「PCB廃棄物対策事業」「フレキシブルコンテナバッグ事業」「プラント事業」等を行っております。

半世紀以上、培った技術と知識を活かし、法令順守と環境配慮を徹底した製品やサービスを提供することで、環境問題の解決に取り組む企業です。

2026年5月に東京で開催された「NEW環境展」では、脱着装置、パワーリフター、自動幌開閉装置、コンテナ、EV化システム、位置情報管理システム等を出展いたしました。



自動幌開閉装置「カブリオーレ」



パネ式手動の巻き取りシート「テル・ワン」



手動ハンドルにて巻き取るシート「テンディ・ライト」



パネ式手動+電動モーター付の巻き取りシート「ロール・ウィング」

一 どのような製品を手掛けているのでしょうか？

現在は、クラマロ社製のダンプトラックや深煽りボデー、ダンプトレーラ向けの「自動幌開閉装置」の拡販に努めています。

既存車両に後付けすることが可能で、土砂・飼料・チップや産業廃棄物を運搬走行中の積荷の飛散を防ぐのはもちろん、空力性能も改善され、弊社実験では、燃費が約6%向上いたしました。

また、飛散防止のために高所によって手作業でシート掛けを行うことは大変危険で、実際に毎年多くの転落死傷事故が発生しております。

シートの開閉を地上からのスイッチ操作で行うことによって、作業者の転落リスクをゼロにできます。



荷台のあおりに立ってのシート掛け作業は転落事故の原因となっている



地上からのスイッチ操作で開閉できるので転落事故リスクはゼロ

取扱製品の動画はYouTubeで公開中 →



一 御社の経営方針は？

これまでに培ったモノづくりの『創意工夫』を活かし、物流・建築・環境という社会基盤(インフラ)を支える領域において、変化を恐れず、国内外からの新技術を取り入れ、新分野に挑み続けることを、今後の大きな抱負・方向性としています。

人

一 御社の特徴は？

コンテナ作りにおいては、スウェーデン鋼材を使用した製品等、歪みが発生しにくい、頑丈な「熟練の職人による手作り」を強みにしています。

工場で働く従業員は、高い溶接技術やサンダー仕上げで専門的な職

人技術を持っています。これらの技術は、定期的な社内講習により、男女を問わず伝承しています。

一 次世代の教育について

単一の作業だけではなく、新しい資材や多様な商品展開に対し、柔軟に対

応できるフットワークの軽さや、創意工夫をするよう教育をしております。お客様のご要望に応えるべく、未経験の仕様にも古参も若手も社員一丸となって取り組んでいます。困難な仕様の依頼が入った場合は全員参加型の開発ミーティングも開催しています。

「交通報國」の理念で、100年以上の歴史

安全自動車(株)は1918年設立、今年で創業108年を迎える老舗企業である。初代社長・中谷保氏が米国で「T型フォード」の普



及を目の当たりにし「これからは自動車の時代が来る」と確信。帰国後、輸入車(ダッジなど)の販売代理店として事業を開始し、日本モータリゼーション黎明期の基盤作りに貢献してきた。創業期にはガソリンスタンド事業も展開。日本で初めて「地下タンク式」を導入し、震災や災害時にも火災を免れたことで事業拡大の弾みとなった。戦前から戦後にかけては、バスの架装や自動車の生産・整備にも深く関わり、自社製の普通乗用車やバス、オートバイ等の製造も手掛けていたが、戦時の社会情勢により自動車製造から撤退する。

戦後すぐの1945年から現在の主力事業である「自動車整備機器(車検機器等)」の取扱いを開始。高度経済成長期を経て、整備用工具や車検機器を扱う専門商社・メーカーとしての地位を確立した。

整備・検査に特化。安全と労働環境改善製品に注力

全国の自動車ディーラー、民間車検工場、ガソリンスタンド、板金・塗装工場、自動車専門学校等に、スパナやドライバーといった工具から大型



リフト用挟まれ防止センサー

整備機器まで約35,000アイテムに及ぶアフターマーケット商材を供給している。近年では、「転落防止」「挟まれ防止」の安全対策製品や、力を使わずにタイヤやパーツを持ち上げる「ポータブルリフト」等の労働環境改善製品のニーズが強まっており、関連製品を拡充している。



執行役員 営業部 部長
奥村 淳

営業部 営業グループ グループ長
石田 将教

単なる商品の販売だけでなく、自動車製造・整備工場向けに、大型整備機器、特注テスター、特殊な検査設備等の設置・納入事業も広く行っている。

全国の整備工場や顧客へ向

けて、広報誌「安全ニュース(CHARGE)」を年4回、約1.5万～2万部を発行している。

CHARGEでは納入事例や最新整備機器の事例紹介、法令改正や安全対策に関する自動車整備の最新情報等を、フルカラーの冊子やWebサイトで発信している。

車検整備機器にとどまらず、架装工場でも活躍する機器や設備も豊富にラインナップされていることは、意外と知られていない。



車両寸法を迅速に測定する
3次元測定装置



広報誌は
ネットでも
閲覧可能



万全の顧客フォローと技能コンクールによる技術継承

車検機器やリフトの故障は、顧客である整備工場の業務停止に直結する。安全自動車(株)では故障時には電話転送によるサポート体制に力を入れ、専任エンジニアの他、協力会社との連携で、土日祝日も迅速に対応でき、絶大な信頼を得ている。



技術の確実な継承を目指し、1996年から2年に1回「社内整備技能コンクール」を開催し、若手・中堅エンジニアの技術向上と世代交代、知識の継承の場として定着している。

作業時間を短縮する省力化機器の提案

今後、整備士の不足や高齢化が深刻化する中、AIやDXの活用、労働安全性の向上に加え、省力化機器の提案を通じて、自動車アフターマーケットの発展とともに、「人がいない前提の工場づくり」に貢献していく。

安全自動車(株) 代表取締役社長 中谷 宗平

『交通報國』を通して、社会の発展と社員の
人間力向上に貢献

【本社】〒108-0023 東京都港区芝浦4-16-25

Tel: 03-5441-3412 <https://www.anzen.co.jp/>



私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

災害医療 × キャンピングカー

(株)ノルメカエイシアは、災害医療機器・資材の専門商社である。1995年の阪神・淡路大震災後に、創業者の千田良氏が、北欧ノルウェーにて災害用の野外病院用テントや担架などを扱う企業「Normeca社」の取扱製品を目にし、「日本にもこうした災害医療に特化した企業が必要だ」という強い想いから、1996年に設立、今年で創業30周年を迎える。

主な取引先は全国の大学病院、総合



ノルウェー「Normeca社」の医療用大型テント

病院(主に災害拠点病院)、官公庁、地方自治体、日本赤十字社、各種医師会で医療用・防災用資材の販売だけでなく、災害訓練時のデモンストレーション、使用方法の指導、被災地での運用サポートなど、ソフト面を含めた総合的な提案・支援を行っている。

2022年に自動車パーツ大手の日本ピストンリング(株)(現・リケンNPR(株))の100%子会社となり、2025年10月より、約30年にわたり手がけてきた「キャンピングカー用品の販売事業」を(株)ノルメカエイシアが継承した。

「災害医療 × キャンピングカー」の独自モデル

異なる領域に見える「災害医療」と「レジャー」であるが、災害発生時にはキャンピングカーが医療従事者の移動拠点や仮設診察室となったり、現地での宿泊施設になる等、高い親和性がある。実際に能登半島地震や熊本地震の際もキャンピングカーを活用した支援活動が行われた。

レジャー事業では、従来から長年培ってきた海外メーカーとのネットワークと、国内トップシェアを誇る製品ラインナップを展開し、自社エンジニアによる製品の修理・アフターサ

ポート体制は、顧客から大きな支持を得ている。

製造メーカーや架装業者、販売代理店とのBtoBパートナーシップをベースに選ばれ続ける提案力を追求し、価格変動の波に左右されないよう、万全のメンテナンス体制や技術提案により、製品+αの価値を提供している。

販売管理システム統合の苦労

事業統合では、異なる管理システムへ製品・顧客・売上・在庫といった全データをわずか3ヶ月で移行する必要があり、このシステムの統合が一番苦労した点だという。

膨大なデータの地道な移行作業を完了させた結果、新システムの容量を活かした幅広いデータ管理が可能となり、従来は把握しにくかった情報も一目で把握できる環境を整備することができた。

今後は2つの事業間で顧客情報の共有を進めていき、自治体や医療現場に対する「災害時派遣・宿泊用車両」のパッケージ提案の強化を目指している。

キャンピングカーショーでは、(株)ノルメカエイシアの災害備蓄品やメディカル製品を出展する等、レジャー関連製品だけでなく多角的な視点からの展示も積極的に行っている。

キャンピングカービルダーが災害支援車両を製作する案件も増え、日本RV協会の取組みにより、災害時にキャンピングカーが被災地に出動する協定が自治体と締結されたり、災害時のキャンピングカー活用の機運も高まっている。

2つの事業を両輪に、相互の知見を活かした災害支援体制と商品提案を目指し、災害時における医療・支援の継続性を支える専門商社としての地位を確固たるものにしていく。

(株)ノルメカエイシア



国内市場の約7〜8割というシェアを獲得しているイタリア フィアマ社製 オーニング



350ml缶に衣類1人分が入った緊急備蓄衣料セットを展示



(左)
取締役副社長
営業部部長
河合 基史

(右)
営業部NRSグループ
グループリーダー
川島 光弘

(株)ノルメカエイシア 代表取締役社長 藤田 雅章

どんなときも、必要な所に、必要な医療をお届けします。

【本社】〒343-0824 埼玉県越谷市流通団地3-1-13

Tel : 048-971-7136 <https://www.normeca-asia.jp/>



経済産業省及び内閣官房国家サイバー統括室が進めている
SCS (Supply Chain Security) 評価制度について報告する。

Q1 SCS評価制度とは？

サプライチェーン全体の安全を守る**新たな共通指標**。近年、サイバー攻撃は特定企業だけでなく、取引先や協力会社を経由してサプライチェーン全体へ被害を拡大させるケースが増加している。こうした状況を受け、経済産業省は「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度 (SCS評価制度)」の構築を進めており、**2026年度末からの運用開始**を目指し、**企業のサイバーセキュリティ対策状況を共通基準で評価・可視化**し、発注側・受注側双方の負担軽減とサプライチェーン全体のセキュリティレベル向上を図ることを目的としている。詳しくは、以下経産省資料参照

<https://www.meti.go.jp/files/900017305.pdf>



【ポイント】

★(スター)でレベルを評価：現在は「★3」「★4」の2段階で制度化が進められている。

(経済産業省HPより抜粋)

比較項目		★3		★4		★5[検討中※5]
想定される脅威		・ 広く認知された脆弱性等を悪用する一般的なサイバー攻撃		・ 供給停止等によりサプライチェーンに大きな影響をもたらす企業への攻撃 ・ 機密情報等、情報漏えいにより大きな影響をもたらす資産への攻撃		・ 未知の攻撃も含めた、高度なサイバー攻撃
対策の基本的な考え方		全てのサプライチェーン企業が最低限実装すべきセキュリティ対策: ・ 基礎的な組織的対策とシステム防御策を中心に実施		サプライチェーン企業等が標準的に目指すべきセキュリティ対策: ・ 組織ガバナンス・取引先管理、システム防御・検知、インシデント対応等包括的な対策を実施		サプライチェーン企業等がさらに目指すべき高度な対策: ・ 国際規格等におけるリスクベースの考え方に基づき、自組織に必要な改善工程を整備、システムに対しては現時点でのベストプラクティスの対策を実施
要求事項	有効期間	26件	1年	43件	3年 (毎年自己評価を実施し結果を評価機関へ提出)	(今後検討)
評価スキーム		専門家確認付き自己評価※4		第三者評価		第三者評価

※4 専門家：登録セキスベ、CISSP等の資格を有し、かつ制度が定める研修を受講したセキュリティ専門家 ※5 ISMS適合性評価制度。★3・4との整合性も踏まえ、対策事項を今後検討

Q2 車体業界との関係性は？

車体業界は完成車メーカー、部品メーカー、架装メーカー、資材メーカーなど、多数の企業が連携するサプライチェーンで成り立っている為、**一社のセキュリティ事故が、生産停止や情報漏えいにつながり、業界全体へ影響を及ぼす可能性があり、取引先からセキュリティ対策状況の提示や入札条件等で★3以上が求められる機会が今後増加すると考えられる。**

Q3 自動車工業会・部品工業会の対応状況は？

自工会と部工会は共同で「**自動車産業サイバーセキュリティガイドライン**」を運用している。業界全体のセキュリティレベル向上を目的として2020年3月に初版策定、最新版はv2.3。2026年4月にはセキュリティガイドライン工場領域版(v1.0)を策定。

詳細は、右記URL参照 https://www.jama.or.jp/operation/it/cyb_sec/cyb_sec_guideline.html



自工会・部工会では「**自動車産業サイバーセキュリティガイドライン(SCS評価制度に準拠)**」説明会を9月16日(水)、10月2日(金)に開催予定。参加無料でどなたでも参加できますので、是非ご視聴ください。

<https://www.jabia.or.jp/news/20656/>



Q4 ★3を取得するには？

要求事項・評価基準を満たす具体的な実装例などをまとめた評価ガイド等は、2026年秋頃を目途に経済産業省から公表される予定。

現時点で公表されている要求事項から、★3取得には右表の7つの事項を実施する必要がある。

カテゴリー	★3要件
ガバナンスの整備	企業として最低限のリスク管理体制の構築
取引先管理	取引先に課す最低限のルール明確化
リスクの特定	自社IT基盤や資産の現状把握
攻撃等の防御	不正アクセスに対する基礎的な防御 端末やサーバーの基礎的な保護
インシデントへの対応	発生に備えた対応手順の整備
インシデントからの復旧	発生から復旧するための対策の整備

経済産業省及び独立行政法人情報処理推進機構(IPA)では、中小企業による本制度の★3★4取得に向けた新たな支援策として「サイバーセキュリティお助け隊サービス」(新類型)を26年度末頃より受付開始予定。

詳しくは、以下参照

https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/otasuketai_jissho.html



Q5 車体工業会の今後の対応は？

制度取得した企業名が公表される予定の為、セキュリティ対策への取組みを客観的に示すことができるようになる。今後は品質や納期に加え、「**セキュリティへの取組み**」が**企業評価の重要な要素になる**ことが予想される。車体工業会では、2026年秋に経産省から発行が予定されている評価基準を満たす具体的な実装例などをまとめた評価ガイド等をはじめ、SCS評価制度に関する情報は随時会員への提供を進める。

会員各社におかれては、今からできることとして、情報処理推進機構(IPA)が進めている、「**SECURITY ACTION**」の★1★2の宣言から始めることを推奨する。この制度は中小企業自らが、情報セキュリティ対策に取り組むことを自己宣言する制度で安全・安心なIT社会の実現が目的。

詳しくは、以下参照

<https://www.ipa.go.jp/security/security-action/sa/>



★1宣言：情報セキュリティ6箇条の実行

- No 1. OS やソフトウェアは常に最新の状態にしよう！
- No 2. ウイルス対策ソフトを導入しよう！
- No 3. パスワードを強化しよう！
- No 4. 共有設定を見直そう！
- No 5. バックアップを取ろう！
- No 6. 脅威や攻撃の手口を知ろう！

★2宣言：「5分でできる！情報セキュリティ自社診断」を実施し、「情報セキュリティ基本方針」を策定・外部公開し、情報セキュリティ対策に取り組むことを宣言する

サイバーセキュリティレベルの向上を進めていきましょう

働くクルマたち



第54回：原木運搬車

社会に欠かすことができない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について、毎回車種を選定し、その特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

第54回目は原木運搬車についてトラック部会の松阪自動車工業(株)から紹介する。

1. 木材運搬の歴史

かつてまだ道路が整備されていなかった時代、木材の運搬は川を利用した「流送」が主流だった。しかし明治～昭和にかけて橋やダムの建設が盛んになると、流送は衰退、道路の整備に合わせて馬車などを使った陸送が始まる。明治30年代には国を挙げた伐採事業が本格化し、鉄道の活用も始まった。しかし、自動車が普及し、交通網が発達すると鉄道は衰退。戦後の昭和30年代以降はトラック輸送が主流となり、現在に至っている。

参考：<https://sin-rin.jp/forescope/research/117/>



2. 原木運搬車の歴史

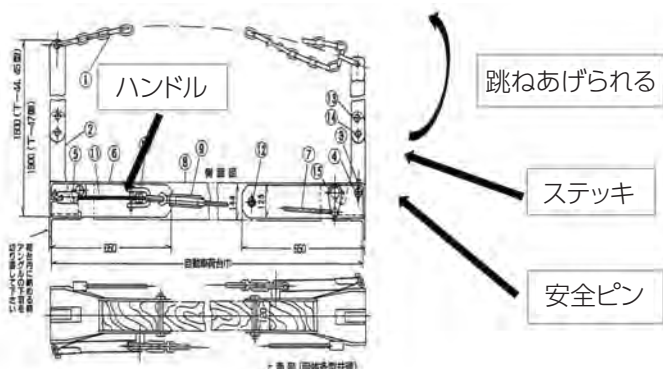
写真提供：松阪自動車工業(株)

昭和30年代以降、林道が整備されトラックの性能が向上すると、木材輸送の主流はトラックとなった。原木輸送は、木材流通の最も川上を担う重要な部門である。それを支える運材車(原木運送車両)は、平らな荷台の平ボデーに落下防止用の柱(当初は丸パイプ式であったがのちに角パイプ式に移行した。)を立て各部を強化した特別仕様の車両である。落下防止用の柱にはいくつかの種類があり、なかでも戸田鉄工が昭和34年に開発した戸田式積載梁(戸田式ステッキ)は、昭和～平成にかけて広く普及した。



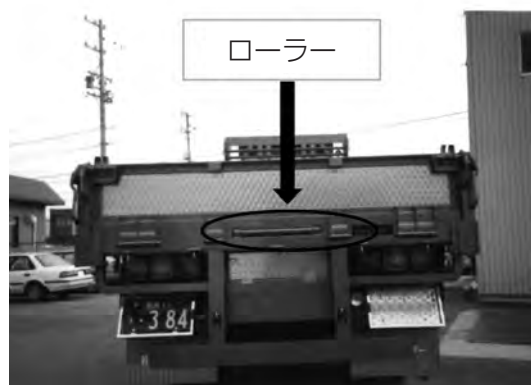
■戸田式積載梁(ステッキ)

ステッキ下部の安全ピンを抜き、反対側のハンドルを操作することによって、カムからステッキが外れ、丸太が落下する。上部がチェーンで連結されているため、ステッキは上方に跳ね上がり、木材の下敷きになることはない。(通称「まくり」と呼ばれていた。)



(資料提供：戸田機械商事(株))

通称「バック・ドン」と呼ばれた降ろしかたをするための車。荷台に横積みした材木をワイヤーで束ねて積載し、車を勢いよく後退させ滑り落す仕様の荷台で、ローラーが装着されている。



3. 現在

写真・資料提供：フォレストテック(株)

近年はより軽量で荷役時の安全性も高い北欧メーカー製アルミ製柱が台頭してきている。

また、荷台の前または後ろに専用コクピットを持つ林業用クレーンを架装したのもも普及してきている。

■スウェーデンExTe社製 アルミスタンション

テレスコピックとコニカル

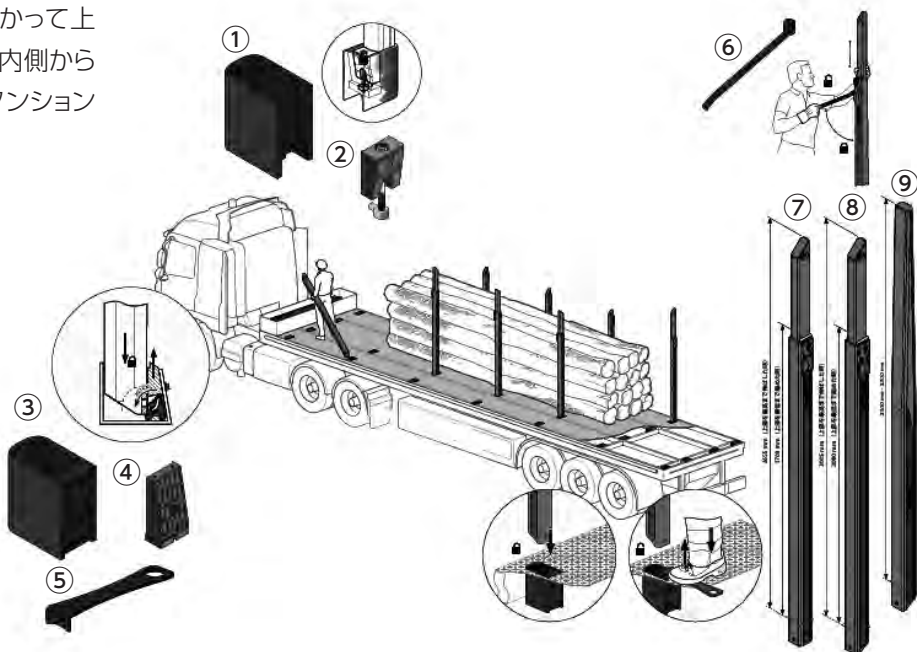
アルミニウムで構成され、軽量ながら、重量物の運送にも非常にパワフルです。⑦⑧のテレスコピックスタンションは上下部材ともにアルミ製で、⑥の専用ツールで上部の高さを調節することが出来る。⑦の日本特別仕様は、上下調整しやすい高さで、最大積載荷重も標準タイプよりもアップしている。

⑨のコニカルスタンションは、中心に向かって上部が両面から傾斜することで、積載時に内側からも外側からもスペースが生まれる。スタンションは、この中で最も軽量。

ソケット

クイックロックウェッジ用

スタンションを素早く簡単に移動したい場合や、取り外したい場合、スタンションをスプリングの張力を利用したセル部ロックウェッジとソケットに差し込むだけ。スタンションの取外しは、専用ツール⑤を差し込むだけでスタンションをソケットから引き抜くことが出来る。



架装ベースとなるシャシは中大型クラスが主流で、輸送規模や道路状況などに応じて使い分けられている。かつては不整地走行が得意な4WDトラックも多くみられたが、現在は大型トラックについては生産が終了。大量輸送が可能なセミトレーラ、フルトレーラの普及が進んでいる。

●10トン車とトレーラ類の標準的な積載量比較

10トン運材車積載量平均: 17.6m³

トレーラ類積載量平均: 29.8m³

(10トン車の1.7～1.8倍の原木を積載できる)

参考：林産試だより2022年11月号



Member's Essay COFFEE BREAK

日常生活の充実度アップ!

トヨタ自動車東日本(株) 総務部 ^{きくち りな} 菊地 理奈

私の趣味はドライブです。休日には、宮城県内のさまざまな場所へ出かけています。車は、これまで家族の車(ノア)を借りていましたが、つい先日、待望のヤリスクロスが納車されました。自分の車なのですが、まだ運転に慣れていないため、「本当に自分の車なのか」と思うくらい慎重に運転しています。でも、自分なりにこだわったシートやカラー、グレードにしたこともあり、乗るたびにワクワクし、とても楽しい時間になっています。

ドライブの魅力は、自由に行き先を決めて好きな場所へ行けることです。特に地元の福島へ帰省する際には、あえて高速道路を使わず下道を選ぶことができます。時間はかかりますが、その分道中で気になったお店や道の駅に立ち寄ったり、景色を楽しんだりすることができます。これまで知らなかった場所



を発見できることも多く、毎回違った楽しみがあります。また、好きな音楽をかけながら運転する時間もドライブの楽しみの一つです。景色を眺めながら音楽を聴いていると気分がリフレッシュされ、運転そのものが特別な時間に感じられます。これからも安全運転を心掛けながら、愛車とともにさまざまな場所を訪れ、新しい発見を楽しんでいきたいと思っています。

私のもう一つの趣味は料理です。学生時代に一人暮らしを始めた時、食費を抑えるために始めましたが、続けるうちに料理そのものが楽しくなり、今では趣味の一つになりました。社会人になった今も平日はできるだけ自炊をしており、家庭料理であれば一通り作ることができます。献立を考える際は、肉や魚だけでなく、野菜もしっかり取り入れら



れるよう意識しています。冷蔵庫にある食材を見ながらメニューを決めたり、新しいレシピに挑戦したりする時間も楽しみの一つです。自分で作った料理が美味しくできたときには達成感があり、日々の良い気分転換にもなっています。仕事後の疲れをとるためにも食事は大切な要素なので、これからも楽しみながら作りたいです!

30歳を過ぎてからの新たな出会い

和光工業(株) 営業グループ ^{とみざわ あきのり} 富澤 彰紀

私は小学生から高校生までの8年間野球一筋でしたが、前職で長野県に住んでいた頃、とあるスポーツに出会いました。それは「バレーボール」です。以前から他のスポーツはテレビ観戦をすることは好きでしたが、大人になってから何かに打ち込むということはありませんでした。

バレーボールは学校の授業レベルでしか経験のない球技の一つで、競技となると正式なルールを含め覚えることが多く、はじめはできないことばかりでした。観るとやるとでは全然違いますよね。

スパイクなどもっと簡単にできると思っていま

したが、なかなかイメージ通りにプレイできず悔しかったです。しかし、ここで私の負けず嫌い根性にスイッチが入りました。部活動経験者のチームメイトは当たり前のようにスパイクを打ち込みます。「同じ人間がやっているのだからできないはずはない」と練習に打ち込んでいます。今の実力はというと…(笑)。始めた当初に比べれば上手くなっている実感はありますが、まだまだ成長段階です。また、年一回ではありますが、夏の(浜辺ではない)ビーチバレーも楽しんでいます。砂地は足元が踏ん張れず難易度が高いですが楽しいです。





チームメイトたち(前列右が筆者)

社会人になってから始めるスポーツにおける学生時代の部活とは大きく違う点は、色々な経験をしている方と知り合えることができることです。たくさんの出会いを通して私自身もヒトとして成長できるよう、楽しみながら充実させていきたいと思います。また、同世代のチームメイトとは旅行に行くようにもなりました。プライベートで夢中になれることがあると、普段の仕事も自然と頑張れます。

長野で仕事をしているときに誘ってくれた方には今でも本当に感謝しています。実力はまだまだですが、上手くなるためにもっともっと夢中になりたいと思います。

ラヴィアンローズ!

ゼット・エフ・CVソリューションズ・ジャパン(株)
トレーサールス なかしま ちあき 中島 千晶

履歴書の趣味・特技の欄に困ることがない多趣味な人間である。とにかく気になったらやってみないと。観てみないと読んでみないと。行ってみないと覚えてみないと持ってみないと! っとなっていると、時間も空間も足りなくなる。

なのでおのずとスピードが速くなる。文庫本や漫画を清



涼飲料水のように読むよね、と言われたこともある。

汗牛充棟。引越し屋さん泣かせの「本」と書いたダンボールと共に幾度引越したことだろう。そういう人に限って、転勤族の親(本好き)を持ち、全国転勤上等の夫(本好き)を持つ。あるあるなのだ。本当にありがとう、全国のアリスさんやパンダさん。

小学生の頃から映画や演劇も好きだ。中学生になると補導されないために「週末独りで繁華街に映画を観に行かせます」と生徒手帳の指定の欄に親が一筆。先生の判子をお守りに、プラネタリウムからのひとり映画は最高に楽しいツアーだった。



ガラスペン

最近では映画を倍速で観る文化があるらしいが、やらない。そのスピードは話が違う。

流行り物や新しいものも大好きだ。デジタル一眼やガラスペン。AIも実に楽しい。

映画で観た「わたしはHAL歌を歌うこともできます」の世界に身を置いているかと思うとわくわくする。そして愛すべき音楽やライブ。ロックもポップスもメタルもショパンもBooker Littleも女王蜂も。背中を押してくれたり慰めてくれたりする大事な存在。この世から無くなってもらっては困るもののひとつだ。

ゲームも大好きだ。Switchの会社とはシステム10の頃から仲良し。

編み物もミシンも刺繍も。何かができあがる喜び。達成感がハンパない。

「無人島に何を持って行きますか」、「世界最後の日に何をしますか」は聞かないでほしい。決められないし選べない。

なので無人島には行かないし世界はきっと終わらない。ずっと少しだけ急ぎながら、いろんなことに手を出して幸せに薔薇色の人生を終わるのだ。

めでたし、めでたし。



刺繍

いどばた会議

私の宝物

そこにあるだけで

日産車体(株) 田中 克賢



愛車のフェアレディZ (RZ34型)です。当社でZを生産していた時代を知る先輩方と愛車談義に花を咲かせたり、車両品評会を楽しんだりするのも魅力の1つです(写真は先輩との昼休み品評会)。

新たな趣味

(株)東海特装車
のむらあやか
野村 采加

ネイルサロン
通いをやめ、セル
フジェルネイル
を始めました。

100円均一な
どでもジェルや
道具が揃えられるので、ついパーツなどを買い集めてしま
う日々です。

最近は家に集まって友人とお喋りしながら皆でネイルを
するのがとても心地良い時間になっています。



トミカとともに歩む人生

(株)モリタエコノス 高田 幸一

幼いころからトミカが大好きで、今でも大切にしています。

先日結婚式を挙げた
のですが、大量のトミカ
を飾って奥さんに呆れ
られました。

モリタグループに
入社したのも、幼いこ
ろから大切にしていた
トミカがモリタの車両
だったことがきっかけ
です。

トミカがなければ今
とは全く違う人生を歩
んでいたかもしれませ
ん(笑)



こどもたちの成長の瞬間が宝物!

日本ペイント・オートモティブコーティングス(株)
しみずりょうすけ
清水 亮輔

先日、親子向け生成AIイベントでゲームづく
りブースを担当。こどもたちは音声入力を使い
ながら自分だけのゲームを形にしていきました
が、その集中力や学ぶ速さ、発想の柔軟さには
驚かされるばかり。

こどもたちの「できた！」の瞬間に立ち会えた
ことが、私にとって何よりの宝物です。



フェニックス工業(株)
ボデー製造事業部
うえのかずや
上野 和弥さん



我が社の



三菱ふそうバス製造(株)
バス生産管理部 施設管理課
たなか たく
田中 卓さん



**経験・知識を
活かして創意工夫
を凝らしています**

**関係者の思いを
まとめるのは
大変苦勞します**

Q1 どんなお仕事ですか？

ボデー製造事業部ではトラックの新造、二次架装、修理があります。私の所属している班ではトラックの新造、主に平ボデー、重機運搬車を作っています。

Q2 仕事で楽しいときは

新造は0から作って完成、検査前まで私達が携わります。完成したときの達成感や、お客様それぞれで全く違う仕様なので色々な綺麗なトラックを見ることができるのが楽しく思えます。

Q3 仕事でつらいこと

経験したことのない造りの部品を造る時や、初めて取り扱う材料・部品を取り扱う際にはとても緊張します。今までの自分の経験・知識を活かして創意工夫を凝らす努力はしますが、納期との戦いになるのでそういう時は焦ったりすることもあります。

Q4 これまでの仕事の中で 印象に残っている出来事は？

“このトラックは期限に間に合わない！”と思った仕事がありましたが、班員の皆と一体になり間に合わせる事ができたことです。

班員の世代や性格は違いますが同じ目的に向かっている仲間であること、それぞれの意識の高さを再認識できて、嬉しかったです。

Q5 御社のPRをしてください！

フェニックス工業(株)は、熟練の技術で高品質なトラックボデーを製造しています。用途に応じた柔軟なカスタマイズで、最適な一台をお客様にご提案いたします。

広島県内のみならず他県のお客様への実績も多くありますので、興味がありましたら是非ご相談ください。

Q1 どんなお仕事ですか？

施設管理課で設備保全を担当しています。工場の生産設備やインフラ設備の点検・修理・改善を行い、故障の未然防止と安定稼働を支える仕事です。設備トラブルへの対応だけでなく、省エネや安全性向上のための改善活動にも取り組んでいます。

Q2 仕事で楽しいときは

設備トラブルを無事に解決できたときや、自分が実施した改善によって生産現場の作業効率が向上したときに大きなやりがいを感じます。現場の方から「助かった」「ありがとう」と声を掛けていただけることが何よりの励みになっています。

Q3 仕事でつらいこと

設備故障は昼夜を問わず発生するため、迅速な対応が求められます。生産を止めないよう復旧を急ぎながらも、安全を最優先に原因究明を進めなければならず、大きな責任を感じることがあります。しかし、その経験が自身の成長にもつながっています。

Q4 これまでの仕事の中で 印象に残っている出来事は？

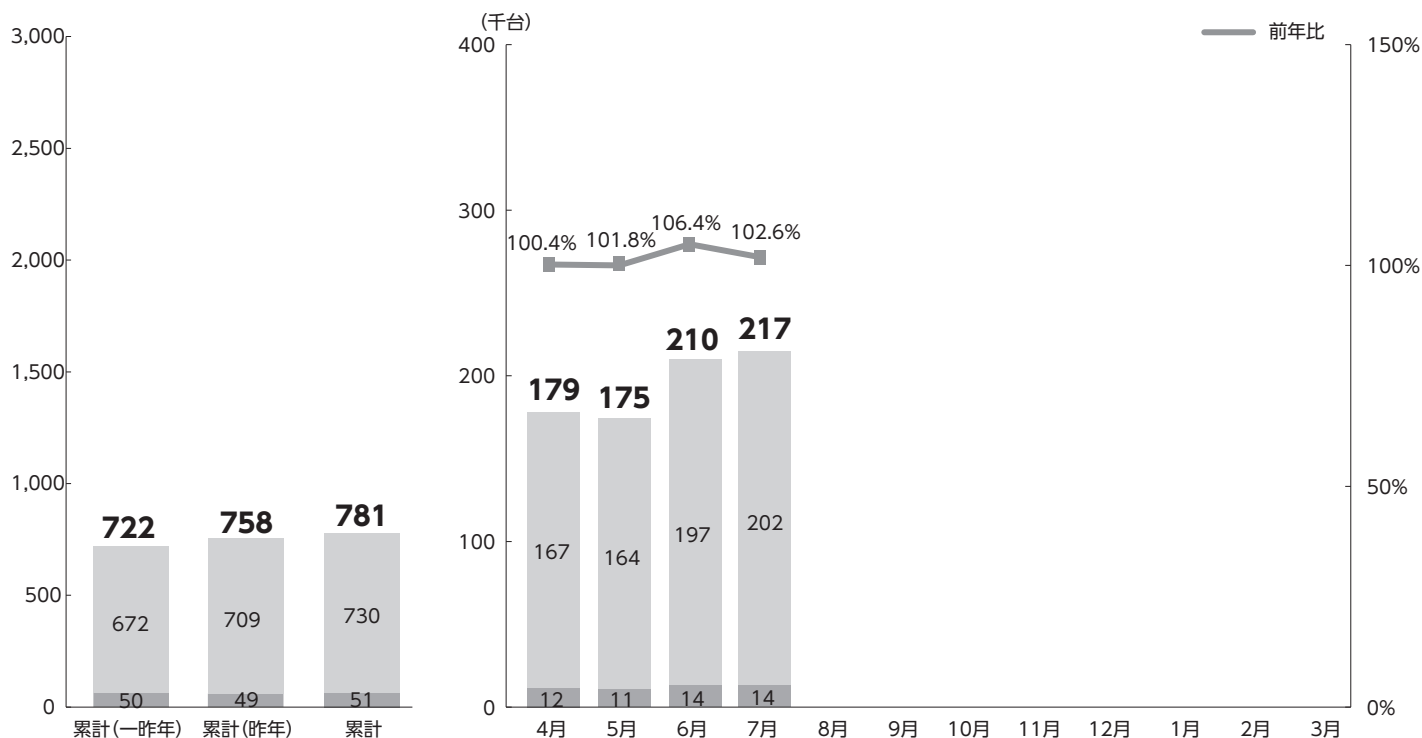
工場のインフラ設備にIoT監視システムを導入し、設備状態の見える化を実現したことです。故障の予兆を早期に検知し、計画的な修理につなげることで、設備停止や生産トラブルの未然防止に貢献できたことが印象に残っています。

Q5 御社のPRをしてください！

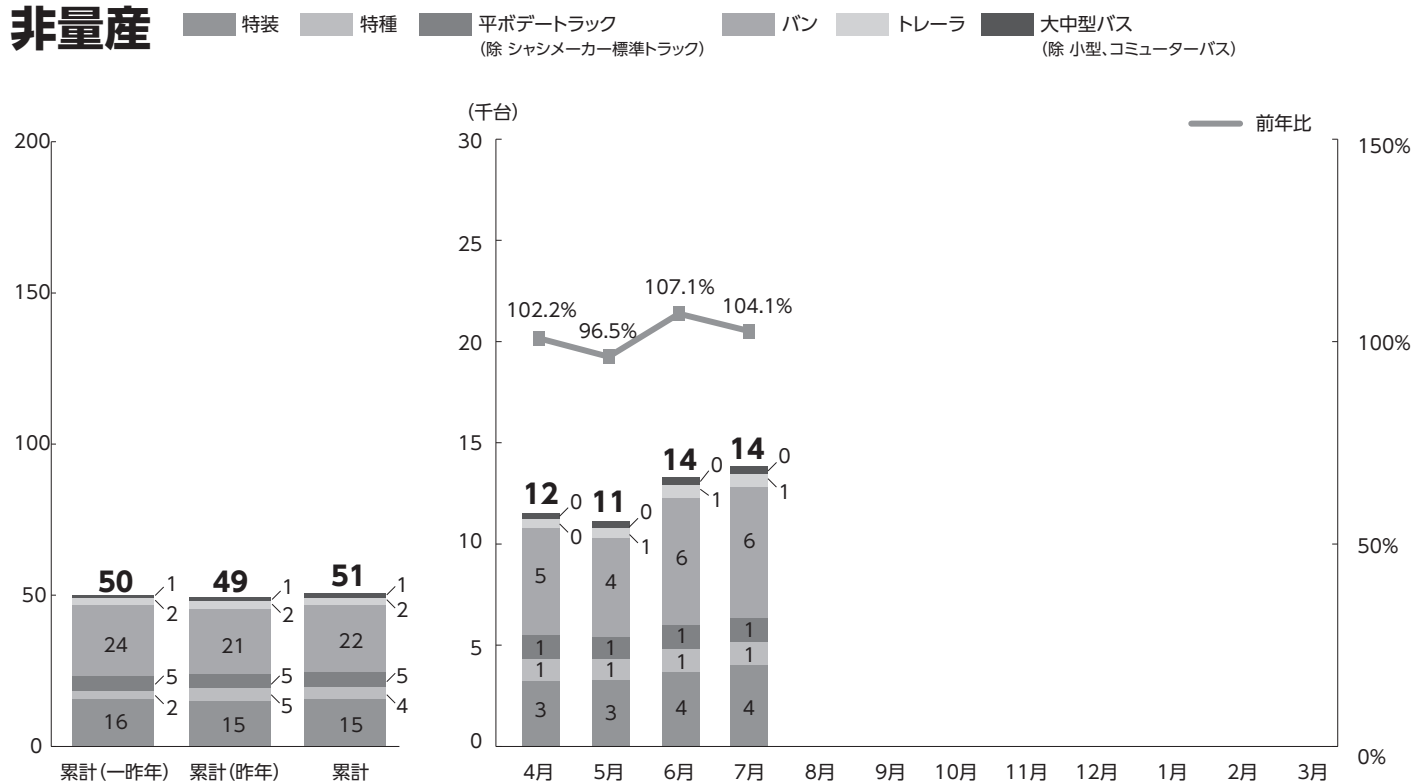
当社は高い品質と安全を追求しながら、ものづくりを通じて社会に貢献している会社です。現場改善や技術革新に積極的に取り組み、社員一人ひとりが成長できる環境があります。チームワークを大切にしながら、より良い未来づくりに挑戦し続けています。

2026年度 会員生産状況

総合計



非量産



※台数は小数点以下四捨五入

車体工業会会員生産台数の公表について

部会毎の生産台数等詳細の情報は当会ホームページをご覧ください(一部会員限定)。

<https://www.jabia.or.jp/production/>



編集後記

はじめに、この度の熊本地震及び千葉県を中心とした豪雨によりお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

被害に遭われた地域の方々のご無事をお祈り申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興そして被災された皆様の生活が1日も早く平穏に復することを心よりお祈り申し上げます。冒頭の巻頭言でも矢野副会長から紹介がありましたが、災害時における緊急支援車両やレッカー車、車両運搬車等の供給にご尽力いただいた、当会会員の皆様にあらためて敬意を表します。

NEWS特集で継続掲載している「カーボンニュートラル対応」や「コンプライアンス優先経営の徹底」をはじめ、会員各社の工場見学会、環境対応、人材育成、サイバーセキュリティなど、業界を取り巻くさまざまなテーマを今号でご紹介しました。

特に、深刻化する人材不足への対応や脱炭素化への取組みは、多くの会員企業に共通する重要課題です。一方で、本誌で紹介した各社の創意工夫や現場改善の事例からは、厳しい環境の中でも挑戦を続ける業界の力強さを感じることができました。

技術革新、環境対応、人材確保、コンプライアンス強化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、その変化は新たな価値創造の機会でもあります。本誌が会員の皆様にとって課題解決や情報共有の一助となれば幸いです。

今後も会員相互のネットワーク強化と業界発展に資する情報発信に努めてまいります。引き続き、会報「車体NEWS」へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

(小森)

表紙写真について

特種部会 坪井特殊車体(株)製 「ゴルフツアーバン」

本車両は、プロゴルフのトーナメント会場で使用されるツアーバンで、現地で選手が使用するクラブや用具をサポートするための車両です。

クラブを調整するための器具や作業台を備えており、ツアーに帯同するクラフトマンが作業を行えるようになっています。

また、選手とスタッフが打合せや休憩などを行えるサロン室も設けられており、快適に過ごせるよう工夫がされています。

メーカー様の要望に応えるため、フルオーダーで製作されています。



お知らせ

秋季会員大会 講演会のご案内

◆日 時：2026年10月16日(金) 15:30～18:00

◆場 所：品川プリンスホテル・メインタワー
東京都港区高輪4-10-30

◆講演会：(仮)「需要動向と当社の取組み」について
講演者 UDTトラックス株式会社

環境対応事例発表会のご案内

◆日 時：2026年10月27日(火) 15:00～17:00(予定)

◆場 所：Web開催

◆内 容：特別講演
会員企業の環境対応事例
環境ラベル取得表彰

この会報「車体NEWS」は、主として法令改正等含めた自動車車体にかかわる情報をとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,800部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

車体NEWS

AUTUMN 2026 秋



広告掲載会社

極東開発工業株式会社……………表2
スリーエム ジャパン株式会社 ……表3
損害保険ジャパン株式会社…………表4

2026年9月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 小森 啓行

架装物の安全点検制度

架装物の定期点検で『SDGs』に貢献



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT

GOALS



環境にやさしい未来をつくる働く車
未来の子ども達に美しい地球を
のこすため「豊かな環境保全」には
定期点検整備が必要です。

定期点検整備を実施した事を証明する
『架装物年次点検【済】』ステッカーです。

点検に
行こう

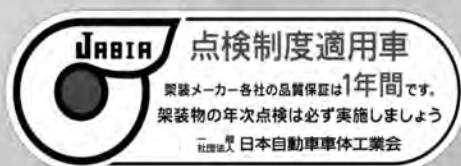


点検OK



安全・安心・信頼の証 ステッカー!!

※ 新車時 『点検制度適用車』ステッカー

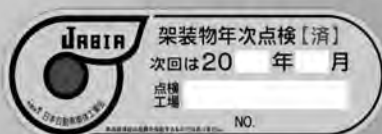


品質保証付き

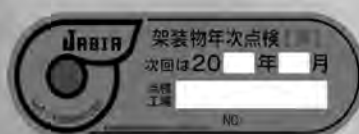


点検制度適用車

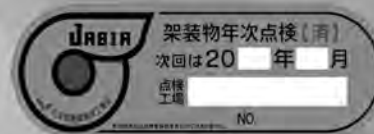
※ 点検時 『架装物年次点検【済】』ステッカー



2023 年 (黄色)



2024 年 (水色)



2025 年 (黄緑色)



一般
社団法人

日本自動車車体工業会

Japan Auto-Body Industries Association Inc.

中央技術委員会 点検整備推進分科会

<http://www.jabia.or.jp/>



架装物安全点検制度



安全・安心・信頼は定期点検から!!



点検・整備は各架装メーカーの指定サービス工場で、トラブルを未然に防止し稼働率アップが信頼獲得への第一歩です!!

日本自動車車体工業会 架装物安全点検制度で架装物を快適に支える ■ 5つの項目

- ☐ 架装物の性能を維持することができます。
- ☐ 安心感を持って業務（作業）ができます。
- ☐ 故障、修理による稼働率の低下を防ぎます。
- ☐ 不要な修理費を最小限に抑えランニングコストの削減が図れます。
- ☐ 突然のトラブルを未然に防止し、お客様からの信頼も獲得できます。

架装物安全点検制度は「SDGs」を支援しています。

- 地球温暖化と有害物質削減。
- 循環型社会への貢献。
- 環境負荷物質削減。
- 架装物リサイクルへの取り組み。
- 安心・安全・信頼のおけるサービス提供。
- 地域社会への貢献と共生。
- 会員の理念や行動指針が浸透する組織作り。
- 官民連携創出の支援。

★ 点検を行うのは
架装物の点検は各メーカーごとに定められた点検項目に基づき実施し、結果を点検整備記録簿に記録しなければなりません。

★ 点検の記録は
点検結果は所定の定期点検整備記録『チェックリスト』に点検内容を記録し3年間保管しなければなりません。

★ 異常があった場合は
点検の結果、異常・不具合を認めた場合は正常な状態に復旧するように修理しなければなりません。

★ 点検する者は
自動車を運行する者がおこなうことになっていますが推奨として各メーカー指定サービス工場でおこなうことで安心と信頼をえられます。

★ 点検には検査機器が必要です
点検には特殊機器が必要となる場合があります。設備の整った各メーカー指定サービス工場での点検・検査をお勧めいたします。

★ 点検車両には点検【済】ステッカー
メーカー指定サービス工場で定期点検を実施した車両には、車体工業会発行の架装物年次点検【済】ステッカーを貼付いたします。

※道路運送車両法(第47条の2)日常(運行前)点検・(第48条)定期点検は使用者・運行する者に義務付けられています。
※法令で定期点検(検査)が義務付けられている特装車は1年以内ごとに定められた検査をおこなわなければなりません。

点検制度対象製品（架装物）一覧

車体形状	製品名	
ダンプ	大型リヤダンプ	
ダンプ	中型リヤダンプ	
ダンプ	小型リヤダンプ	
ダンプ	軽ダンプ	
ダンプ	トレーラダンプ	
ダンプ	三転（二転・サイド）ダンプ	
ダンプ	ローダダンプ（建機運搬兼用）	
タンク車	タンクローリ	石油類
タンク車	タンクローリ	毒劇物
散水車、給水車orタンク車	タンクローリ	散水・給水
タンク車	タンクローリ	食品
コンクリートミキサ車	トラックミキサ車	アジテータ
粉粒体運搬車	エア式粉粒体運搬車	
粉粒体運搬車	スクリュウ式粉粒体運搬車	
トラクタ	粉粒体運搬車用トラクタ	
塵芥車	機械式塵芥車	

車体形状	製品名	
糞尿車	衛生車	
清掃車	洗浄車	
清掃車	汚泥吸排車	
清掃車	強力吸引作業車	
清掃車	路面清掃車	
脱着装置付コンテナ専用車	脱着車	キャリア
キャブオーバー	普通型あり	
キャブオーバー	深あり	
キャブオーバー	車輛運搬車	1台積
キャブオーバー	重機運搬車	
バン	ドライバン	
冷蔵冷凍車	冷凍車	
冷蔵冷凍車	保冷車	
バン	ウイング	
冷蔵冷凍車、バン	テールゲートリフタ	
キャブオーバー		

※点検・整備は各架装メーカーの指定サービス工場にお問い合わせ願います。（安全・安心・信頼はプロの目でチェックいたします。）

トラック架装物（上物）にはメーカー指定定期点検があります!!

【架装メーカー】

★ 法定定期点検には含まれない整備などについて定期点検・整備項目として指定。

【整備工場】

法定点検・整備

メーカー指定点検・整備

+ 架装物年次点検【済】ステッカー

※ 法定点検・整備に加え、各社メーカー指定の点検・整備を実施しましょう。

架装物年次点検項目チェック表!!

ご存知ですか、このラベル。

環境にやさしい働くクルマに付いてます。

“環境基準適合ラベル”

環境基準適合ラベルは、架装物解体作業の容易化、再生資源の適正な処理を促進する
“環境にやさしい車体”であることを証明する車体工業会で制定したラベルです。



環境基準適合ラベル
ホワイトラベル

環境に配慮した
3つの要件

適合
要件

- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)
判断基準ガイドラインの作成・活用
- 製造者名、樹脂部品材料名の表示
- 解体マニュアルの作成・公開



新環境基準適合ラベル
ゴールドラベル

ホワイトラベルに
さらに3つの要件を追加

追加
要件

- + 車体製品部材のリサイクル可能率95%以上
車体工業会における
「環境負荷物質自主取組み基準」
を満たしている
- + ISO14001やエコアクション21など
第3者機関による環境認証取得工場生産

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

12



私たちは持続可能な
開発目標 (SDGs) を
支援しています。



環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録され掲載されています。https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/a04_48.html



一般社団法人 **日本自動車車体工業会**
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館15階 TEL (03) 3578-1681 FAX (03) 3578-1684

詳しくはWebページをご覧ください。

JABIA

検索

www.jabia.or.jp



防ごう 大型車の車輪脱落事故



おとさぬ ための 点検整備

事前の正しい点検が大きな
事故を未然に防ぐ唯一かつ
最善の手段です。



さびたナットは 清掃・交換

ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、
ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加
塗装などを取り除きます。



いちにち一度は ゆるみの点検

運行前に特に脱落が多い
左後輪を中心に、ボルト、ナットを
目で見えて手で触るなどして点検します。

お

と

さ

な

い

な

い



トルクレンチで 適正締付

適正なトルクレンチによる
規定トルクの締め付け、
タイヤ交換後の増し締めの実施。



ナット・ワッシャー 隙間に給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部と、
ナットとワッシャーもすき間にエンジンオイル
など指定の潤滑油を薄く塗布し、
回転させて油をなじませてください。

©くまね工房



詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ
http://www.jama.or.jp/truck-bus/wheel_fall_off/

国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 日本自動車工業会(いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDT・トラックス)
全日本トラック協会 日本バス協会 全国自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会



水没したトレーラ取り扱いについて

集中豪雨などで水没したトレーラは、ホイールベアリングの錆び付きやブレーキの引きずり等により、脱輪や火災に至る恐れがありますので、以下の「水没トレーラ点検箇所一覧表」をご参照し、必ず点検・整備を行ってください。



水没イメージ

水没した部品の事例



アクスルナット



ホイールベアリング



スピンドル



ハブ内部



ブレーキチャンバ

水没トレーラ点検箇所一覧表 (一般的な形状のトレーラ)

点検箇所			点検内容		
			車軸まで浸水	荷台まで水没	
制動装置	サービスブレーキ	エアカプラ(黄&赤)	—	分解、清掃、給油	
		リレーエマージェンシーバルブ			
		エアタンク		分解、清掃	分解、清掃
		ブレーキチャンバ			
		配管			
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ操作バルブ	—	交換	
		スプリングブレーキチャンバ	交換		
		配管	分解、清掃		分解、清掃
	ABS装置	モジュレータ	—	交換	
		車輪速センサ			
		配線		分解、清掃	
		配管			
	機構部分	オートスラックアジャスタ	分解、清掃、給油	分解、清掃、給油	
		Sカム及びシャフト			
ブレーキシュー&ライニング					
ブレーキドラム		分解、清掃			分解、清掃
走行装置	アクスル	スピンドル	分解、清掃、給油	分解、清掃、給油	
	ハブ	ベアリング	交換、給油	交換、給油	
		ハブオイルシール	交換	交換	
		緩衝装置	パネサス	スプリング	—
ロッカーアーム及びピン	分解、清掃、給油				
トルクロッド	清掃			分解、清掃	
エアサス	ベローズ		清掃	—	交換
	各バルブ		—		
	ハイトコントロールレバー				
	配管				分解、清掃
	ショックアブソーバ		清掃	交換	
リフトアクスル	エアチャンバまたはベローズ		分解、清掃、給油(チャンバ)、 清掃(ベローズ)	分解、清掃、給油(チャンバ)、 交換(ベローズ)	
	配管		分解、清掃(チャンバ)、 -(ベローズ)	分解、清掃	
電気装置	灯火器		7極ソケット	—	交換
		車幅灯			
		方向指示器			
		側方灯			
		リヤコンビネーションランプ			
		後退灯			
		番号灯			
		配線			
その他	連結装置	キングピン	—	清掃、給油	
	補助脚	本体	清掃	分解、清掃、給油	
	車枠及び車体	フレーム	—	清掃	
	架装物	架装物	仕様による	仕様による	

不正改造車を排除する運動



不正改造は犯罪です



大迷惑

ダサい!

不正改造車の使用者
整備命令の発令

違法

不正改造を実施した者
6ヵ月以下の拘禁刑又は30万円以下の罰金

不正改造車
迷惑黒煙車
通報連絡先

不正改造車を見かけたら

- 車両のナンバー
 - 不正改造の内容
- をこちらまで



不正改造車を
排除する運動
ホームページ



推進/国土交通省、不正改造防止推進協議会 後援/内閣府、警察庁、農林水産省、経済産業省、環境省 協力/独立行政法人自動車技術総合機構、軽自動車検査協会

(一社)日本自動車整備振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会、全国自動車電装品整備商工組合連合会、全国タイヤ商工協同組合連合会、(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)日本中古自動車販売協会連合会、日本自動車輸入組合、(一社)日本自動車工業会、(一社)日本自動車部品工業会、(一社)日本自動車車体工業会、(公社)日本バス協会、(公社)全日本トラック協会、(一社)全国ハイヤー・タクシー連合会、(一社)日本陸送協会、全日本自動車部品卸商協同組合、(一社)日本自動車タイヤ協会、(一社)全国軽自動車協会連合会、(一社)全国自家用自動車協会、(一社)日本自動車通商、(一財)自動車検査登録情報協会、(一社)日本自動車会議所、(一社)日本二輪車普及安全協会、(一社)全国自動車標板協議会、全国石油商業組合連合会、(一社)自動車用品小売業協会、日本ウィンドウ・フィルム工業会、(一社)日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会、(一社)全国二輪車用品連合会、全国ディーゼルポンプ振興会連合会、全国自動車大学校・整備専門学校協会、全国自動車短期大学協会、全国オートバイ協同組合連合会、(一社)日本RV協会

トレーラ火災にご注意!

その火災
整備不良かも!?

この画像の動画はこちらから



動画二次元コード

出典：国土交通省 YOUTUBE チャンネル
(トレーラ火災の原因と防止について)



トレーラの装置別不具合

制 動

ブレーキ・チャンバ、スプリング・チャンバ
ダイヤフラムの劣化、スプリングの折損、
ブレーキ・ホースや継ぎ手の劣化

リレー・エマージェンシ・バルブ

エアフィルターの目詰まり、パッキン類の劣化
不純物や水分凍結によるリレー部目詰まり

オートマチック・スラック・アジャスタ、ブレーキシュー
ゼロ点調整不良、リターンスプリングの劣化
シューベアリング部の潤滑不良

走 行

車軸、ホイール、ハブ

ベアリング部の潤滑不良、
アクスルナットの締付トルク不良

エア圧力低下
ブレーキ引き摺り

ブレーキ戻り不良
ブレーキ引き摺り

回転不良
摩耗

発 火

適切な点検整備を行うことが車両火災の防止に有効です

アクセスはこちらから

トレーラ点検整備実施要領

<https://www.jabia.or.jp/safety/system/#section02>



一 般
社団法人

日本自動車車体工業会 トレーラ部会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

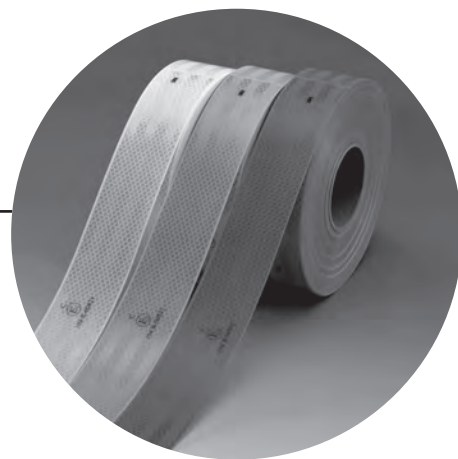
美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング（線状再帰反射材、輪郭再帰反射材等）が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した（※Eマーク付）3M™ダイヤモンドグレード™コンスピキュイティ反射シートを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカル™フィルム、コントロールタック™ コンプライ™ グラフィックフィルム、プリントラップフィルム等の施工性に優れた製品を提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3M™ダイヤモンドグレード™
コンスピキュイティ反射シート

3M™プリントラップフィルム IJ280

3M™ ダイヤモンドグレード™ コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。（当社ガイドライン通りに貼付された場合）。

事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

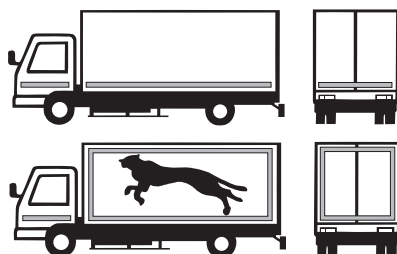
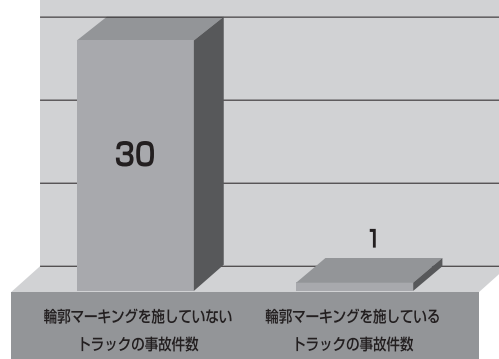
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”（コンスピキュイティ）不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



Eマークとは:国際的な車両型式認証の相互承認制度(IWVTA)に基づき、協定規則の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入り製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示 第55条の2」に定められている基準に適合している製品です。



スリーエム ジャパン株式会社

コマーシャルブランディング&トランスポーテーション営業本部

本社 〒141-8684 東京都品川区北品川6丁目7番29号
URL <https://www.mmm.co.jp>



守るとは、 真っ先に動くことだ。



暮らしを守るとは、遠くから見守ることではない。

誰かが困ったとき、真っ先に動くことだ。

私たちがそう考えるのは、損保ジャパンの歴史の原点に、
明治26年に結成した「私設消防団」があったからです。

火事が起これば、誰よりも早く現場へ向かい、人々の暮らしを守る。
そんな火消しの精神は、いまでも私たちのなかに受け継がれています。

今日もどこかで、お客さまが困ったとき、真っ先に動けるように。
私たちには、全国に保険代理店という心強いパートナーがいます。
暮らしを守るとは、私たちだけでできることではありません。
損保ジャパンと保険代理店は、想いをひとつに、
これからも地域に寄り添い、安心や安全をお届けしていきます。

守るとは、真っ先に動くことだ。今日も、その覚悟を胸に。

お客さま、社会、そして自分にまっすぐ。
損保ジャパン